



令和2年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ

長野高等学校 学校長だより

(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和2年

No 8

9月11日(金)

「大型スクリーン」を寄贈して頂きました。

この度「株式会社エーシーエ(ACA)設計」(代表取締役 竜野泰一氏)様から、標記の物品の寄付を頂きました。9月8日(火)に、竜野様と八十二銀行の担当の方とがお見えになり贈呈式をして頂きました(写真参照)。

八十二銀行には「地方創生・SDGs応援私募債」という制度があります。私募債(特定の投資家を対象に企業等が発行する債券)発行の際に引受手数料を割引いて、その分を活用して地域の学校やSDGsに取り組む団体等へ寄付をすることによって、将来を担う人材の育成や地域の社会福祉の向上を応援するという制度です。

「株式会社エーシーエ(ACA)設計」は建築の設計管理等の業務を主とする会社で、多くの建物を手掛けておられますが、教育関係建物で身近なところでは、長野駅東口の清泉女学院大学の東口キャンパスや飯田OIDE長姫高校などがそうです。竜野様は現在本校のPTA副会長でもあり、ご自身も本校の高34回の卒業生です。コロナ禍の現在、オンラインでの映像を使う場面が非常に多いため、この「大型スクリーン」は主に大会議室に置き、授業や会議等に使用させていただきたいと思っております。この度は株式会社エーシーエ設計様ならびに八十二銀行様に感謝申し上げます。



右 竜野代表取締役(その右に大型スクリーン)



大型スクリーン

「オンライン学習の手順」を定めました。(今後の休校時等に備えて)

夏休み明け、8月28日付「今後臨時休校等となった場合におけるオンライン授業等の手順について(連絡)」を配布するとともに、本校HPにアップしました。4~5月の休校中のオンライン授業に対するアンケート(生徒・保護者)結果を受けて策定したものです。同期型(双方向、ライブ型)のオンライン授業に関してGoogle meetを利用しての研修を8月3日(月)~5日(水)教職員で行うとともに、各クラスではクラス担任(副担任)とクラス生徒との間でGoogle meetを利用して、SHRを実際にやってみる実践を試行しているところです。

できるだけ、この手順を使わないことが良いわけですが、現状から鑑みると、いつこの学校でも教職員・生徒が感染するか分からない状況です。したがって、この手順を学校・生徒・保護者の皆さんで共有しておくことが必要だと考えました。

現時点では、教職員・生徒が「陽性」となれば学校は休校となり、休校期間はすべての教育活動は停止します。例えば予定していた大会には参加できず、練習試合やクラブ活動等は一切中止となります。また、教職員は濃厚接触者の特定やPCR検査の連絡、消毒等の作業に従事するため、休校初日からすぐに学習活動支援には入れないこともご承知ください。

「学習」だけでなく「特別活動(生徒会・HR・学校行事)」「クラブ活動」も大切です。

昨日 9月10日付「秋季クラスマッチ実施にあたって(連絡)」を配布しました。そこにも記載した通り、学校としても各行事等について、できる限り実施できる方法を模索しながら教育活動を進めているところです。そのためには、既成の概念や思い込みに囚われることなく、今だからこそできる自由で柔軟な発想のもと、新たな価値を創造していく、というぐらいの意気込みで、教職員どうしや生徒どうし、あるいは教職員と生徒との間で、知恵を出し合って進めていく事が重要だと考えています。

とはいえ、残念ながら休校明けに「春季クラスマッチ」「夏季学習合宿」「台湾修学旅行」は中止せざるを得ませんでした。そんな中、1年のNGP活動(総合的な探究の時間)でのグループ討議(討議テーマ「長野高校をよい学校にするには」)で出された意見・考えの中に「交流」という意見が多かったのが印象的でした。以下は、その抜粋です。

長野高校をよい学校にするには

- ・他クラス、他学年との関わりが非常に少ないと感じるため、他学年、他クラスとの交流ができるような企画を考え、実行すべき。
 - ・他学年や他クラス、班活、さらに先生などとの交流を増やすと、学校全体が活発になり長野高校がより良い学校になる。
 - ・上級生との関係を深めたい。そのためにクラスマッチなどの交流を深める行事を積極的に行う。
 - ・交流の機会を増やしてほしいという意見が出たので、机の配置の工夫や姉妹学級制など、交流の機会を増やすのが学校をより一体化させるために重要だ。
 - ・生徒が主体となって地域交流などの活動を行える機会を増やす提案。
 - ・校舎の清掃を通して学年で交流すれば学校全体が明るくなる。
 - ・Google Meet を使ってクラス学年関係なくオンラインで勉強をし、他クラス・他学年と交流を図る
 - ・クラスマッチやクラスのレクなどを増やすことで、より来たいと思える学校に出来る。
 - ・課題点:人との関わりが少ない 解決策:席替えを増やす、小グループで相談しながらの授業、他学年との合同授業、全校集会でレク、先生・生徒間の挨拶の義務化など。
 - ・学年を超えて、生徒同士が関わりあうために、休日などに、生徒同士で勉強を教え合う会を開く。
 - ・清掃や長高王、ディスカッションなどを縦割りや全校の同じ名簿番号の人で行い「クラスの枠を越えた交流」を図る。
- アンダーラインは宮本加筆 (他にも多くの意見がありましたが、紙面の関係で割愛)

行事等に対する学校の考え方の他、上記生徒の思いもあり、現在は下記のように対応しています。

① 2学年研修旅行の代替案

- ・台湾の高校生との交流という面については、従前の学校訪問はできないので、授業内でのライブ交流も予定していますが、「台湾の高校生とのビデオ共同制作」に主眼を切り替えて、海外とオンラインで共同プロジェクトを実践する経験を積む、という新たな取組として、英語プロジェクトの授業等において準備を進めています。
- ・学年やクラスでの修学(研修)旅行あるいは親睦を図るという面については、生徒の皆さんを含めて検討する旨を8月28日(金)にクラスマスター、サブマスターに集ってもらい説明するとともに、今後は各クラスから代替案検討係を2名ずつ選出して、教職員等も含めて検討を進めて行く予定です。

② 音楽会

- ・11月5日(木)に予定された1年と2年が参加する行事ですが、まずは教職員と生徒で検討を進めます。9月10日(木)放課後に、1・2年各クラスからの代表2名が参加して最初の検討会を開きました。

(生徒の皆さんは、この学校長だよりを読んだあと、保護者の方に渡してください)



音楽会(クラス合唱)